

令和6年度 富士宮北高等学校第2回学校運営協議会（議事録）

1 日時 令和6年11月18日（月）午後3時00分から4時30分まで

2 場所 本校 小会議室

3 参加者

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 渡邊 昇司 | 静岡大学教職大学院 特任教授         |
| 犬浦 教雄 | 白糸・上井出学習センター長          |
| 加藤 孝明 | 富士宮商工会議所 経営支援課長 本校後援会長 |
| 齋藤 賢文 | P T A会長                |

敬称略

校長（山野）、副校長（長谷川）、教頭（野澤）、事務長（鈴木道）  
図書・研修課長（佐藤詔）

4 内容

(1) 開会（司会：長谷川副校長）

ア 校長挨拶

- ・11月17日（日）に実施された5校応援委員会合同発表会の報告
- ・探究の学びの大切さ

(2) 議事（司会：渡邊委員長）

ア コンプライアンス委員会

(ア) コンプライアンス関係報告（副校長）

本校のコンプライアンス対応について

(イ) コンプライアンス関係質疑応答

Q:自分事として捉えるために、どのような研修を行っているのか。（犬浦）

A:事例活用や、県より提示されている不祥事に関する資料を活用した小グループによる話し合いを実施している。（副校長）

イ 本校の探究学習について

(ア) 本校の探究学習の現状（図書・研修課長）

指導計画について：

1年生：探究の基礎や社会の仕組みについて学ぶ

2年生：前半は富士宮市の課題設定、後半は沖縄に関する理解を深める

3年生：進路に関する探究を実施

取り組み状況：

地域密着型の学びとして、富士宮市や商工会議所の協力を得て学習を進めている。生徒が課題設定を「自分事」として捉えにくいケースが多いため、教員のファシリテーターとしてのスキル向上が必要。

新たな試み：

生徒が主体的に楽しく学べる「タンタンタイム」を通じ、学習環境の改善を目指す。

(イ) 「行きたい学校づくりの報告（副校長）

- ・事業内容について

(ウ) 協議

テーマ：「生徒が探究学習を自分事（じぶんごと）としてとらえるためには」

## ウ 全体質疑応答及び意見交換

Q: 発表スキル向上のための指導はどのように行われているか。(齋藤)

A: 1年次に外部指導者を招き、プレゼンテーション基礎講義を実施。

生徒が発表の基礎スキル(話し方、文字の大きさ等)を習得することを目的としている。(佐藤詔)

○生徒の興味が変化する中で、1年間同じテーマに取り組むのは難しいのではないかと。興味を維持するため、前期と後期でテーマを分ける方法や体験活動の導入を検討するのも有効。地域の魅力や課題を肌で感じる体験活動を通じ、学びへの主体性を育むことが期待される。(加藤)

○プレゼン発表会を聴講した。学校全体のレベルは年々向上していると感じた。(加藤)

Q: 調べ学習の方法について知りたい。(犬浦)

A: 現状、インターネットを用いるケースが多い。次年度はアンケート収集や施設問を取り入れる予定。(佐藤詔)

Q: 商工会議所との連携は可能か。(齋藤)

A: 富士宮市の企業について高校生が十分認識していない現状があるため、地元企業の魅力を伝える機会を設けることが重要。(加藤)

Q. 小中学校での富士山学習の取り組みについて知りたい(副校長)

A: 小中学校では、地域の人物や農作物を調べ、発表する活動を行っている。高校で同じテーマを扱う場合でも、調査方法や視点を変えることで新たな発見が可能。探究学習を通じ、課題発見力を育成することは「生きる力」につながる。(犬浦)

○同じテーマでも、深まりが異なるため心配は不要。他校では市役所と連携している事例がある。総合的な探究学習は、進路と関連付けることで「自分事」として捉えやすくなる。(渡邊)

○生徒は、地元企業を知らない。企業人講話は有効である。(渡邊)

○人間関係を築くために、ファシリテーター研修を取り入れると良いのではないかと。(渡邊)

○商業科の定員割れについて、アピールが必要ではないか。また、商業科について、中学校の教員や保護者への説明も必要ではないか。(加藤)

(3) 閉会(司会:副校長)

次回予定

日時:令和7年1月から2月 時刻は未定

学校関係者評価の審議、次年度に向けて